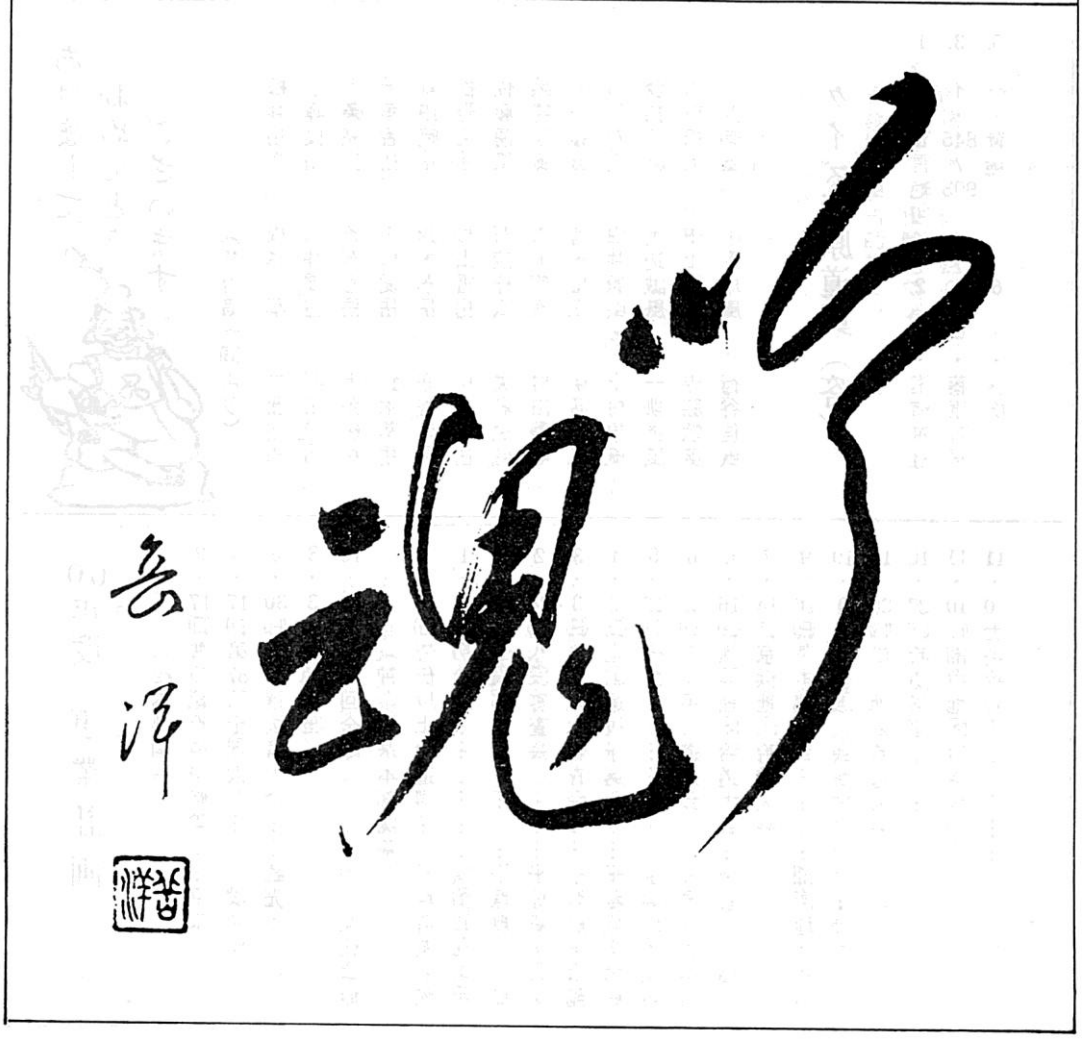
碩心

社団法人　日本詩吟学院岳風会　認可
神奈川　碩心会　発行

60年1月現在会員数	
逗子地区	166名
葉山地区	297名
大船地区	65名
（合計）	（528名）

60年1月号（150号）
発行者
根岸岳萃
編集
中村愛岳



新年のごあいさつ

碩心会々長　根岸　岳萃

新年明けましてお目出度うございます。皆さんが御家族共々、良き新年を迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。

昨年の碩心会の諸行事も、皆さんの絶大なるご協力で、すべて成功裡に終了することが出来ましたし、又県本部の最大行事の創立三十周年大会も、構成吟の詩舞出演者並に伴吟者等に見られるように、当会の占めた比重は、誠に大なるものがありました。そして会も発展しつゝ新年を迎えることの出来ましたことは、誠に慶びに堪えません。本年もすでに色々の行事が予定されておりますが、皆さんが仲良く楽しく、吟道にご精進下さることを期待しております。吟道家に悪人なしとも言われております。我々の趣味が、地方文化の向上と、世直しに役立てばすばらしいではありませんか。皆さんの御健康を祈念致しましてごあいさつと致します。

あけましておめでとうございます

（指導者一同より）

松井岳洋　根岸岳萃　加藤岳相
小峰桜岳　三井雲岳　沼田洸岳
下条亮岳　竹石憲岳　千葉劒岳
千葉香岳　中村愛岳　鈴木萃岳
森田暁岳　鈴木孝岳　守谷崇岳
松野宝岳　杉山雪岳　秋元梁岳
佐藤湧風　石渡桂風　矢島悦風
黒崎李風　広瀬翔風　村田瀞風
沼田義風　清水耀風　伊藤峰風
白井寿風　白井麗風　上村象風
金指萌風　渡辺誠風　一柳道風
木村松風　田上洲風　寺脇歌風
立沢御風　小形雄風　行谷佳風

クイズ菅原道真（答）

1. ロ・五言絶句　2. ハ・南海神社
3. イ・845～903　4. ロ・藤原時平
5. ハ・黄梅　6. イ・春風

60年度　事業計画

（総本部関係）

2・17(日)準師範吟道研修講座…東京
3・17(日)第87回全国大会……九段会館
6・30(日)全国選抜者大会……読売ホール
8・34夏期講座
10・10(祭)第88回全国大会……神戸文化会館

（神奈川県本部関係）

1・13(日)皆伝以上吟道講座…平塚農業会館
1・27(日)初吟会……横須賀孔雀苑
2・17(日)七段審査会……平塚農業会館
2・24(日)八段審査会……平塚農業会館
3・3(日)皆伝以上審査会……平塚農業会館
4・7(日)全国選抜予選会……平塚農業会館
5・12(日)総会……京浜地区担当
6・2(日)青少年吟道大会……湘南地区担当
6・16(日)横二地区吟道大会…鎌倉公民館
7・14(日)京浜地区吟道大会…
9・16(日)県本部大会……湘南地区担当
10・9～11全国大会参加吟行会…神戸
10・20(日)横一地区吟道大会…
10・27(日)吟道講座……
11・10(日)湘南地区吟道大会…
11・30(土)納吟会……

碩心会常任理事会

議事概況

日　時　59年12月10日(月)18時30分～21時
場　所　桜山下会館

一、協議事項

(1)吟行会の実施案について
　五月下旬～六月上旬頃、山形県「寒河江(さがえ)」（木村岳風先生胸像・吟魂碑建立）・上の山温泉・蔵王観光の吟行会を計画の旨提案。
（参加人員、費用等について会員各位にアンケート調査を行ない、その結果をみて、具体的に計画することとされた）

(2)　高段者審査会の受審者を対象とした碩心会内部の講習会を実施してはとの提案あり。
（県本部講習、並びに碩心会指導者講習を通して吟法の統一をはかることとする。但し、書取りの課題については、符付、字配りの体裁の統一等を勘案し、手本を作成して受審者各位に配布することとされた。）

二、報告事項

(1)春季審査会　三月十日(日)逗子市図書館ホール
(2)秋季審査会　九月二十九日(日)予定
(3)総本部主催準師範講習会は、二月十七日(日)
(4)全国選抜者大会予選会（四月七日、平塚農業会館）に出吟希望者は、二月末までに各教場の担当師範に申し出ること。
◇吟題は絶句とし、新教本の一・二巻より自由選題
◇出吟資格は中伝以上

(5)碩心会の温習会は、六月に開催予定

三、懸案事項

(1)吟道手帳の活用について
　当会では県本部主催の講習会のみに使用しているが、碩心会内部の講習等にも活用してはどうか。又、中伝以上の会員に保有してもらうようにしては。（現行、指導者及び奥伝以上が保有）
（総務部　加藤圭岳）

◎お願い

七段・八段の審査に合格された方は、なるべく早く許証料(四千円)を納入して下さい。
（許証部　中村幸岳）

人生最後の勉強

上山口支部　鷲山　祐風

私が詩吟をはじめたのは昭和五十年十二月十六日、年令七十五歳でした。あれから満九年間碩心会に在籍、上山口教場に於て秋元先生はじめ、吟友の皆様達の懇切なる御指導を賜り、一歩々々進んで参りました。
　しかし、昨年七月末から声が嗄れて吟も思う様に出来ないので、咽喉が悪いと気付き、診察をうけたところ、東京日大病院に行くように紹介され、九月十六日、日大で声帯付近の手術を行い、悪性の物質を除去しました。
　そして九月十八日は吟の昇段審査でした。無理かと思いましたが、折角練習したので受審しましたが、その一週間後、加藤医師より、今後安静休養せよとの注意を受けました。以来毎日規則正しく薬を服用し、一日の半分は床の中で一ヵ年静養いたしました。
　その甲斐あって今年の九月末で薬は中止するとの医師の言葉があり、私の喜びは生き返った心地でした。詩を吟じてみると、前程声は出ませんが、十月中旬から教場へ通いはじめました。初心にかえり、老人ボケにならない様、皆様方の仲間入りをして一生懸命人生最後の勉強をしようと思っております。今後共よろしく御指導の程お願い申しあげます。（註・58・10月号に鷲山さんがんばる!!を記載しました。参考迄に）

練吟メモ

○　伊勢は津でもつ
　　津は伊勢でもつ
　　尾張名古屋は
　　城でもつ

この里謡は、梁川星巌が塾生に韻の説明をするときに使ったといわれている。漢詩を吟詠するからには、押韻（おういん）とはどんなことかぐらいは、知っておいていただきたい。どんな詩でも、韻を踏まない詩はない。（ただし、現代日本の散文詩は例外）近代西欧諸国でも、韻を踏む詩形が原則となっているという。とくに漢詩の場合は、一定の場所の文字は、同じ韻の字を使うという約束（きまり）があり、これを「脚韻」とか「押韻する」「韻をそろえる」「韻を踏む」などといっている。

○一二〇〇年の歴史を有する日本漢詩は、唐詩の詩形を規範としているので、押韻は厳格に守ることを求められている。従って、韻を踏まない詩は、漢詩の仲間には入れてもらえないことゝなる。前回ここで紹介した田中元首相の北京での漢詩は、それなりの意義はあったが、韻をそろえなかったので、漢詩の出来としての評価は、いま一歩というところであった。

○　碩心会の詩

東海巍巍八朶峯。
千秋仰望碩人蹤。
一吟能養浩然気
興起斯文応祖宗。

（峯・蹤・宗は上平二冬韻）

○（　）内は、漢詩を作り、読み、観賞する場合手持ちの韻目表により、該当する韻目を掲げたもの。すなわち、この詩の三つの脚韻は、まさに、平声上の二冬の韻ですよ、ということを示したもの。このメモは、できるだけ常用漢字による表記をと心掛けたが、漢詩が題材ではついにお手上げとなった。悪しからず。

晩秋の鎌倉散策に参加して

森田　暁岳

かさかさと　落葉ふみしめ晩秋の
　鎌倉道を吟友と歩めり

化粧坂　下れば小さき古き堂
　文化の波におされ佗びしく

鎌倉の　古き寺々巡りきて
　昔の武士の往時を偲ぶ

山門を　入れば古き鐘つき堂
　鐘を巡りて紅葉美わし

守るによし　攻めるに難き鎌倉の
　自然の要塞天然の城

（移　籍）

一色A　370　田中和山・371　渡部俊山平松支部へ

（入　会）

673　照井美代子　横須賀市鴨井二ー二十
　県営カモメ団地六ー一〇五
　㊀〇四六八ー四二ー六四九五

（退　会）

72　早瀬静風（桜山A）　105　臼井照風（沼間）
161　武藤嶺風（沼　間）　176　松井玲山（沼間）
557　福島哲市（下山口）　590　鈴木みつ子（沼間）

さすたけの君のすすむるうま酒に
　われ酔いにけりそのうま酒に（良寛）

おだやかなお正月を迎え、皆様お元気のことと思います。吟の道に入ったことにより、多勢の方と知り合いになり、楽しいおつき合いも多い月です。お酒はほどほどに…今年もまず健康をモットーにがんばりましょう。

（さすたけは君の枕詞）